

太陽ちゃん、パネルマン が地球を救う！



エコは幼稚園児から！
環境劇に託した大学生の思い

- 活動時期 → 通年
 - 活動場所 → 主に高知県内
 - 主な活動メンバー
→ 同好会メンバー 20人（1～4年）
- 【ホームページ】 <http://circles.kochi-u.ac.jp/Members/kuc91/index/>

■ わかりやすい劇。体験して身につく省エネ。そして子どもから各家庭へ。

（取り組み内容）

「地球温暖化を防ぐためには次世代を担う子どもたちが自ら考えて行動する力を身につけることが大切」という考えのもと、人格の土台が形成される幼児期から児童期（幼稚園児～小学低学年）を対象に環境教育を進める。

◆環境劇の上演

子どもにもわかりやすいオリジナル劇を通して、地球温暖化の現状や対策などを伝えている。また、最後に節電クイズを行い、日々の暮らしで行動できるよう促している。

（あらすじ：火力ちゃん編）

火力発電所をキャラクター化した火力ちゃんが電気を作ると、地球を病気にする悪いCO2が登場。困った火力ちゃんは仲間のパネルマン（太陽光パネル）と太陽ちゃんを呼ぶ…。はたしてCO2はどうなるのか！？

◆電気づくり体験

環境劇に合わせ、子どもたちに手動式発電機や自転車発電機で電気づくり体験をしてもらおう。実際に電気をつくる大変さを感じてもらおうことで、大切にしようという気持ちを抱いてもらう。

◆絵本の制作（平成20年度）

環境劇の内容をいつでも振り返ってもらえるよう、劇を基に絵本を作成し、県内の幼稚園・小学校に無料配布。

（絵本の特徴）

- ・親しみが持ちやすいようクレヨンや絵の具で絵を描く。
- ・最後に「地球を守るために君たちにできること」というページをつくり、家庭や学校でできる事例をのせて更なる啓発



環境劇の風景



自転車発電機体験



オリジナル絵本の制作

((うれしかったこと))

- ・劇が伝わるか不安だったが、しっかり伝わって家でもやってくれたと聴いて嬉しかった。
こどもの吸収力・行動力はすごい！！
- ・「テレビをつけっぱなしにしたらCO2がくる！とテレビを消すようになりました」など、嬉しい感想も。
- ・子ども達だけでなく、保護者やその家庭内にも広がりが見られる。

◆新しい劇への挑戦（平成21年度）

既存の劇はCO2マンが悪者であるが「CO2は地球にとって必要なもので今はバランスが崩れているだけ」といった指摘を受け、新しい劇の制作に乗り出す。

(あらすじ)

悪者でない良いCO2マンが1人登場。でもエネルギーを使ってしまいCO2マンが3人に…！すると良いCO2マンも悪者に変身しちゃった！そこでみんなにCO2のでない手動発電機（サンパワー）を体験してもらい、その力でCO2マンを減らす。残ったCO2マン、良い子に戻った！

◆取り組みを続けてきた成果

- ・平成19年の立ち上げから、
環境劇を21カ所、環境授業（劇以外）を15カ所で実施。
- ・制作した絵本は14カ所（49冊）を配布。
- ・劇の上演を重ねるごとに反応が良くなり、劇を見るのが2回目の子どもは、質問するとすぐに正解が返ってくるなどの目に見える成長がうかがえた！

【CO2削減効果】

省エネ意識が芽生え、1人が蛍光灯ランプを1日に20分節約したと仮定しても、1年で1人0.8kgの削減、劇を見た〇〇〇人全員が実践すると、〇〇〇kgものCO2排出削減となる！

◆活動資金について

- ・補助金等の申請をして獲得
 - ☆環境ホップステップジャンプ支援事業
 - ☆四大学研究プロジェクト など。
- ・残りは部員からの部費



CO2マンの涙はこれで最後！？



子ども達の反応も上々！

■取り組みのポイント

- ・テレビなどでよく聞かれる言葉はそのまま使うが、そうした難しい内容も身近に感じてもらう工夫をする
（例）海面上昇 ⇒ 島が沈んだらペンギンが住めなくなるよ！など
- ・劇を作る時は本やホームページでたくさん調査し、上記の点に気をつけながらメンバーで話し合う。
- ・環境教育の実施先は、顧問の先生の紹介や、教育実習で関係のある学校などをお願いしている。
- ・幼稚園へ訪問する時は、親子で参加する機会に合わせてもらう（子から親への広がりを狙う）
- ・自転車発電機など、技術のある大学（高知工科大学）と連携し、協力してもらっている。
- ・サークルは年功序列ではなくディレクター制とし、1回生でも中心になれる仕組みをつくっている。

（平成21年10月現在）